

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2019・11月号

石川県学校生活協創立70周年（組合員とともに70年 これまでも これからも）

10月19日（土）石川県教育研究集会 志賀中学校

ダートのコーヒーを無料提供し、 スクールプランニングノートに話が弾みました！

当日は、少し寒い日でしたが、羽咋郡の志賀中学校で教育研究集会が開かれました。学校生協は、ここ数年、この機会に参加された先生方のために、指定店であるダートのコーヒーを、午前11時頃から準備をし、午前の分科会が終わる12時から1時までの1時間の昼食時に提供しています。その時の会話を楽しみながら、学校生協や学校用品への注文を聞いています。

今回特に興味深かったのは、学校生協が扱っている「スクールプランニングノート」への関心の深さでした。ご存じない方もおられるかも知れませんが、教職員用の事務ノートです。パソコンの時代に時代遅れだと言われる方もおられます。しかし、これが意外と人気があるのです。小・中学校用、高等学校用、事務職員用、オールマイティ用の4種類があります。「これ使っているよ」という方が何名も声をかけてくれました。そして、こちらからは「もっと工夫することがあれば知らせて下さい」とお願いをしました。学校生協や学校用品は教職員が作った組織ですから当たり前と言えば当たり前なのですが、久しぶりに良い商品に出会えたと思いました。

10月末経常剰余金決算832万円の赤字。計画よりは427万円の悪化！

石川県学校生活協の2019年度10月末決算は、経常剰余金832万円の赤字です。その状況を詳しく見てみますと、順調な事業は、カタログ事業121%、営業事業103%、リフォーム事業115%、の3事業です。厳しい事業はフレッシュ事業95%、共同購入事業の86%です。私たち職員が担っている自主供給事業では目標比95.9%、指定店供給は91.7%で、総合計で93.9%の結果となっていますが、早く目標突破という報告をしたいと思えます。

厳しい状況です。職員一同頑張っていますので、これからもよろしくお願ひします。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

シリーズ 第1回「クラシック音楽の世界」北本 豊春

今回からは、クラシック音楽についてお話をしたいと思います。クラシック音楽の歴史は、本格的には、バロック期から始まります。音楽はどのような時代にもありましたが、バロック期以前にも、何らかの歌が歌われていたり、楽器が演奏されていたりしたことはありました。しかし、その時代の音楽は、今日の演奏会で取り上げられることは、ほとんどありません。古い時代の音楽史や古来の歌・楽器等の研究対象として、取り上げられることはあります。絵画の場合には作品そのものが残りますので、制作した画家と絵画作品を比較して、時代区分を設けることができます。これに対して、音楽の場合には歌や演奏を記録してなければ、音楽そのものが残ることはないので、ですから歌や曲を記録した楽譜があるかどうか、音楽が残るかどうかの大きな分水嶺になります。美術史の場合には、ルネッサンス、マネエリスム、バロック、ロココ、新古典主義、ロマン主義、自然主義、前期印象派、後期印象派、現代美術と言った具合に十に及ぶ時代区分になります。これに対して、クラシック音楽史の場合には、バロック、古典派、前期ロマン派、後期ロマン派、二〇世紀以降と、五つの区分になります。実際には前期ロマン派と後期ロマン派の厳密な区分の意味はありませんので、ロマン派を一つにすれば、四つになります。西洋美術史に比べてクラシック音楽史の場合は、区分が少ない点は注目しておきたい重要なところだと思います。

編集後記



「クラシック音楽の世界」連載始まる！
この「津幡の空から」を読まれてもう気が付かれた方もおられると思いますが、左の文章が、音楽紹介に変わりました。この文章は、先の「陽巴里美術館」の著者北本豊春さんが、11月に「クラシック音楽の世界」という著書を出版されるので、是非にと執筆を依頼した訳です。私は今もエレクトーンの演奏を習っているので、音楽を聴くのは好きなのですが、この音楽を文章表現することのできる人に対しては尊敬の念しかありません。これから1年間12回の連載が楽しみです。（道祐）